編集後記

諸種の都合で五十三号の発行が遅れ、やっとお届けするところまでこぎつけることができた。

本号には岩尾順氏をはじめ、六氏の論稿を収載した。

巻頭の岩尾順氏「大分県磨崖仏研究、大野郡千歳村大迫大日如来像について」は氏が長年にわたって調査研究を続けられてきた大分県内の磨崖石仏に関する研究成果の一であり、本号の巻頭を飾るにふさわしい好論文である。同大日如来像は計測値の上からは平安期的数値を示すが、その作品の持つふん囲気は近世的生々しさを持っていることなどから、その製年代を大友氏滅亡（近世初頭）とし、作者は大野一族ではないかとみている点など、同石仏に関する新研究として注目される。

第二の芦刈政治氏「豊後国内島津領の情勢―南北朝期における大野郡井田郷の場合―」は、井田郷は建武元年（一三三四）以来島津氏の所領として同氏に支配されることになったが、島津領となった原因や同氏の井田郷支配などについての研究で興味深いものがある。

第三の羽柴弘氏「養賢公毛利高政」は同氏が佐伯藩初代藩主として鶴屋城の築城をはじめとする治政や、高政の生涯等についての研究である。

第四の入江英親氏「立石楽について」は、昭和四十一年に重要無形文化財として大分県の指定を受けた民俗芸能である立石楽の研究である。

第五の染矢多喜男氏「大分県民俗芸能(十)」は、氏が長年にわたって採訪、研究を続けている県内民俗芸能のうちの一で、本稿は西国東郡大田村大字俣水一野の年神社に伝わる岩戸神楽についてまとめられたものである。前記入江氏の研究とともに民俗芸能に関する貴重な研究である。

最後の久保トミ子氏「大砲鋳造」は幕末に大砲鋳造に従事した豊前宇佐郡佐田村の加来氏一族についての研究で、単編ながら興味深く読んでいただけるものと期待している。

× × ×

本会発足当時には考えてもみなかった五十三号というバックナンバーを数えるに至りました。これもひとえに会員諸氏の御協力によるものであります。年四巻発行を堅持するためには多数の会員の原稿が必要であります。会誌発行をスムーズに行なわせるために原稿をお寄せ下さるようお願いします。

尚、会費も早めに納入下さるようお願いします。